



SnapManager で作業する際の制限事項

SnapManager Oracle

NetApp
November 04, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/snapmanager-oracle/unix-administration/concept_snapmanger_limitations_for_clustered_data_ontap.html on November 04, 2025.
Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

SnapManager で作業する際の制限事項	1
clustered Data ONTAP での SnapManager の制限事項	6
Oracle データベースに関する制限事項	7
Oracle データベースの廃止されたバージョン	7
ボリューム管理の制限	8

SnapManager で作業する際の制限事項

環境に影響する可能性があるシナリオと制限事項を把握しておく必要があります。

- ・データベースのレイアウトとプラットフォームに関する制限 *
- ・SnapManager では、ファイルシステムまたは ASM ディスクグループの制御ファイルはサポートされますが、 raw デバイスの制御ファイルはサポートされません。
- ・SnapManager は MSCS （ Microsoft クラスタリング）環境で動作しますが、 MSCS 構成の状態（アクティブまたはパッシブ）は認識されず、 MSCS クラスタ内のスタンバイサーバにリポジトリのアクティブ管理を転送しません。
- ・Red Hat Enterprise Linux （ RHEL ）および Oracle Enterprise Linux 4.7 、 5.0 、 5.1 、 5.2 、 5.3 では、マルチパスネットワーク I/O （ MPIO ）環境で動的マルチパス（ DMP ）を使用して raw デバイス経由で Oracle を導入する場合、 ext3 ファイルシステムはサポートされません。

この問題は、 SnapDrive で SnapManager 4.1 for UNIX 以前のバージョンを使用している場合にのみ使用されます。

- ・RHEL 上の SnapManager では、 * parted * ユーティリティを使用したディスクのパーティショニングはサポートされていません。
これは、 RHEL * Parted * ユーティリティを備えた問題です。
- ・RAC 構成で RAC ノード A からプロファイル名を更新すると、そのプロファイルのスケジュールファイルは RAC ノード A に対してのみ更新されます

RAC ノード B の同じプロファイルのスケジュールファイルは更新されず、以前のスケジュール情報が含まれます。ノード B からスケジュールされたバックアップがトリガーされると、以前のスケジュールファイルがノード B に含まれているため、スケジュールされたバックアップ処理は失敗します。ただし、プロファイル名が変更されたノード A から、スケジュールされたバックアップ処理は成功します。 SnapManager サーバを再起動して、ノード B のプロファイルに関する最新のスケジュールファイルを受け取ることができます

- ・リポジトリ・データベースは、複数の IP アドレスを使用してアクセスできるホスト上に存在する場合があります。

複数の IP アドレスを使用してリポジトリにアクセスする場合は、 IP アドレスごとにスケジュールファイルが作成されます。 IP アドレスのいずれか（ IP1 など）の下にあるプロファイル（プロファイル A など）のスケジュールバックアップが作成されると、その IP アドレスのスケジュールファイルだけが更新されます。プロファイル A が別の IP アドレス（ IP2 など）からアクセスされている場合、 IP2 のスケジュールファイルに IP1 で作成されたスケジュールのエントリがないため、スケジュールされたバックアップはリストに表示されません。

その IP アドレスとスケジュールファイルが更新されるのを待ってスケジュールがトリガーされるか、サーバを再起動します。

- ・SnapManager 構成に関する制限 *
- ・SnapManager では、 RMAN を使用してデータベース・バックアップをカタログ化するように設定できます。

RMAN リカバリ・カタログを使用する場合、リカバリ・カタログは、バックアップされたデータベースと

は異なるデータベースになければなりません。

- SnapDrive for UNIX では、特定のプラットフォーム上で、複数のタイプのファイルシステムとボリュームマネージャがサポートされます。

データベースファイルに使用するファイルシステムとボリュームマネージャは、 SnapDrive 構成ファイルにデフォルトのファイルシステムとボリュームマネージャとして指定する必要があります。

- SnapManager では、次の要件を持つ MultiStore ストレージシステム上のデータベースがサポートされます。
 - MultiStore ストレージシステムのパスワードを設定するには、 SnapDrive を設定する必要があります。
 - 基盤となるボリュームが同じ MultiStore ストレージ・システムに存在しない場合、 SnapDrive は MultiStore ストレージ・システムの qtree に常駐している LUN またはファイルの Snapshot コピーを作成できません。
- SnapManager では、単一のクライアント（ CLI と GUI の両方）から異なるポート上で実行されている 2 台の SnapManager サーバへのアクセスはサポートされていません。

ポート番号は、ターゲットホストとリモートホストで同じである必要があります。

- ボリューム内のすべての LUN は、ボリュームレベルまたは qtree 内に配置する必要がありますが、両方に配置することはできません。

これは、データが qtree に格納されていて、ボリュームをマウントした場合に、 qtree 内のデータが保護されないためです。

- SnapManager 処理は失敗し、リポジトリデータベースがダウンしていると GUI にアクセスできません。 SnapManager の処理を実行するときは、リポジトリデータベースが実行されていることを確認する必要があります。
- SnapManager は、 LPM （ Live Partition Mobility ）および LAM （ Live Application Mobility ）をサポートしていません。
- SnapManager は、 Oracle Wallet Manager および Transparent Data Encryption （ TDE ）をサポートしていません。
- Virtual Storage Console （ VSC ）ではまだ MetroCluster 構成がサポートされていないため、 SnapManager では raw デバイスマッピング（ RDM ）環境での MetroCluster 構成はサポートされません。
- プロファイル管理に関する制限 *
- アーカイブログバックアップを分離するようにプロファイルを更新すると、ホストでロールバック処理を実行できなくなります。
- GUI からプロファイルを有効にしてアーカイブ・ログ・バックアップを作成し、後で [マルチプロファイル・アップデート] ウィンドウまたは [プロファイル・アップデート] ウィンドウを使用してプロファイルを更新しようとしても、そのプロファイルを変更してフル・バックアップを作成することはできません。
- Multi Profile Update ウィンドウで複数のプロファイルを更新し、一部のプロファイルでは * Backup archivelogs separately * オプションが有効になっていて、その他のプロファイルではオプションが無効になっている場合、 * Backup archivelogs separately * オプションは無効になります。
- 複数のプロファイルを更新した場合に、一部のプロファイルで * Backup archivelogs separately * オプシ

ヨンが有効になっていて、他のプロファイルでオプションが無効になっていると、Multi Profile Update ウィンドウの * Backup archivelogs separately * オプションが無効になります。

- ・プロファイルの名前を変更した場合、ホストをロールバックすることはできません。
- ・ローリングアップグレードまたはロールバック操作に関する制限 *
- ・リポジトリ内のホストでロールバック処理を実行せずに、以前のバージョンの SnapManager をホストにインストールしようとすると、次のことができない場合があります。
 - 以前のバージョンまたは新しいバージョンの SnapManager で作成されたホストのプロファイルを表示します。
 - 以前のバージョンまたは新しいバージョンの SnapManager で作成したバックアップまたはクローンにアクセスします。
 - ホストでローリングアップグレードまたはロールバック処理を実行します。
- ・プロファイルを分けてアーカイブログバックアップを作成したあとで、関連するホストリポジトリでロールバック処理を実行することはできません。
- ・バックアップ操作に関する制限 *
- ・異なる ASM データベースに対して同じホストで SnapManager 処理を同時に実行すると、バックアップの作成が失敗することがあります。
- ・リカバリ中に、バックアップがすでにマウントされている場合、SnapManager はバックアップを再マウントしないので、すでにマウントされているバックアップを使用します。

バックアップが別のユーザによってマウントされており、以前にマウントしたバックアップにアクセスできない場合は、そのユーザに権限を付与する必要があります。

すべてのアーカイブ・ログ・ファイルには、グループに割り当てられたユーザに対する読み取り権限があります。バックアップが別のユーザ・グループによってマウントされている場合は、アーカイブ・ログ・ファイルへのアクセス権限がない可能性があります。マウントされたアーカイブログファイルに対する権限をユーザが手動で付与し、リストアまたはリカバリ処理を再試行できます。

- ・SnapManager は、データベース・バックアップの Snapshot コピーの 1 つがセカンダリ・ストレージ・システムに転送される場合でも、バックアップ状態を「protected」として設定します。
- ・スケジュールされたバックアップには、SnapManager 3.2 以降のタスク仕様ファイルのみを使用できます。
- ・ASM を介して 10gR2 および 11gR2 の RAC データベースでバックアップまたはクローン処理を同時に実行すると、バックアップまたはクローン作成の処理のいずれかが失敗します。

これは、Oracle の既知の制限によるものです。

- ・SnapManager と Protection Manager の統合により、SnapVault および qtree SnapMirror の場合、プライマリストレージ内の複数のボリュームをセカンダリストレージ内の 1 つのボリュームにバックアップできます。

セカンダリボリュームの動的なサイジングはサポートされていません。この詳細については、『Provisioning Manager and Protection Manager Administration Guide for Use with DataFabric Manager Server 3.8』を参照してください。

- ・SnapManager では、ポストプロセススクリプトによるバックアップのバックアップはサポートされません。
- ・リポジトリデータベースが複数の IP アドレスを指していて、それぞれの IP アドレスが異なる場合、1 つ

の IP アドレスに対するバックアップのスケジュール設定処理は成功しますが、もう 1 つの IP アドレスに対するバックアップのスケジュール設定処理は失敗します。

- SnapManager 3.4 以降にアップグレードしたあとに、SnapManager 3.3.1 を使用したポストプロセススクリプトでスケジュールされたバックアップを更新することはできません。

既存のスケジュールを削除し、新しいスケジュールを作成する必要があります。

- リストア操作に関する制限 *
- リストア処理の実行に間接的に方法を使用し、リカバリに必要なアーカイログファイルをセカンダリストレージシステムのバックアップでのみ使用できる場合、SnapManager でデータベースをリカバリできません。

これは、SnapManager がセカンダリストレージシステムのアーカイログファイルのバックアップをマウントできないためです。

- SnapManager でボリュームリストア処理を実行した場合、対応するバックアップのリストア後に作成されたアーカイログバックアップコピーはページされません。

データファイルとアーカイログファイルのデスティネーションが同じボリュームに存在する場合は、アーカイログファイルのデスティネーションに使用できるアーカイログファイルがない場合に、ボリュームのリストア処理によってデータファイルをリストアできます。このような場合、データファイルのバックアップ後に作成されたアーカイログの Snapshot コピーは失われます。

アーカイログデスティネーションからすべてのアーカイログファイルを削除しないでください。

- ASM 環境では、データファイルを含むディスクグループに Oracle Cluster Registry (OCR) ファイルと投票ディスクファイルが共存している場合、高速リストアプレビュー操作で OCR と投票ディスクのディレクトリ構造が正しく表示されません。
- クローン操作に関する制限 *
- クローンスプリット処理の進捗状況について、フレキシブルボリュームを含むストレージシステムで inode が検出されて処理される速度のため、0~100 の数値を表示することはできません。
- SnapManager では、クローンスプリット処理が成功した場合にのみ E メールを受信することはサポートされていません。
- SnapManager でスプリットがサポートされるのは FlexClone のみです。
- リカバリの失敗が原因で、外部アーカイログファイルの場所を使用する RAC データベースのオンラインデータベースバックアップをクローニングすると失敗します。

外部アーカイログの場所からリカバリするアーカイログファイルが Oracle で検出されて適用されないため、クローニングは失敗します。これは Oracle の制限事項です。詳細については、Oracle バグ ID 13528007 を参照してください。Oracle では、デフォルト以外のにある場所からアーカイログを適用しません "Oracle サポートサイト"。有効な Oracle Metalink ユーザ名とパスワードが必要です。

- SnapManager 3.3 以降では、SnapManager 3.2 より前のリリースで作成されたクローン仕様 XML ファイルの使用はサポートされていません。
- 一時表領域がデータファイルの場所とは異なる場所に配置されている場合、クローン処理を実行すると、データファイルの場所に表領域が作成されます。

一時表領域が、データファイルの場所とは異なる場所にある Oracle Managed Files (oMFS) の場合、クローン処理ではデータファイルの場所に表領域が作成されません。oMFS は SnapManager によって管

理されません。

- `resetlogs` オプションを選択すると、SnapManager は RAC データベースをクローニングできません。
- アーカイブ・ログ・ファイルおよびバックアップに関する制限 *
- SnapManager では、フラッシュリカバリ領域のデスティネーションからアーカイログファイルを削除することはできません。
- SnapManager は、スタンバイ・デスティネーションからのアーカイブ・ログ・ファイルの削除をサポートしていません。
- アーカイログのバックアップは、保持期間とデフォルトの時間単位保持クラスに基づいて保持されます。

SnapManager の CLI または GUI を使用してアーカイログバックアップの保持クラスを変更した場合、アーカイログのバックアップは保持期間に基づいて保持されるため、変更した保持クラスはバックアップの対象とはみなされません。

- アーカイログデスティネーションからアーカイログファイルを削除すると、欠落しているアーカイログファイルよりも古いアーカイログファイルはアーカイログバックアップに含まれません。

最新のアーカイログファイルがない場合は、アーカイログのバックアップ処理が失敗します。

- アーカイブ・ログ・デスティネーションからアーカイブ・ログ・ファイルを削除すると、アーカイブ・ログ・ファイルの削除に失敗します。
- SnapManager は、アーカイログデスティネーションまたはアーカイログファイルが破損した場合でも、アーカイログバックアップを統合します。
- ターゲット・データベースのホスト名の変更に関する制限 *

ターゲットデータベースのホスト名を変更する場合、次の SnapManager 処理はサポートされません。

- SnapManager GUI からターゲット・データベースのホスト名を変更します。
- プロファイルのターゲットデータベースのホスト名を更新したあとに、リポジトリデータベースをロールバックする。
- 新しいターゲットデータベースのホスト名について、複数のプロファイルを同時に更新する。
- SnapManager 処理の実行中にターゲット・データベースのホスト名を変更する場合
- SnapManager CLI または GUI* に関する制限事項
- SnapManager GUI から生成されるプロファイル作成処理用の SnapManager CLI コマンドには、履歴設定オプションがありません。

SnapManager CLI からは、`profile create` コマンドを使用して履歴保持設定を行うことはできません。

- UNIX クライアントに使用できる Java Runtime Environment (JRE) がない場合、Mozilla Firefox に SnapManager は GUI を表示しません。
- SnapManager CLI を使用してターゲットデータベースのホスト名を更新する際に、SnapManager GUI セッションが 1 つ以上開いていると、開いている SnapManager GUI セッションすべてが応答しません。
- SnapMirror および SnapVault * に関する制限事項
- Data ONTAP 7-Mode を使用している場合は、SnapVault ポストプロセススクリプトがサポートされません。

- ONTAP を使用している場合は、 SnapMirror 関係が確立されたボリュームで作成されたバックアップに Volume-Based SnapRestore （ VBSR ；ボリュームベースの SnapMirror ）を実行できません。これは、 ONTAP の制限により、 VBSR で関係を解除できないためです。ただし、 SnapVault 関係が確立されているボリュームでのみ、最後または最後に作成されたバックアップに VBSR を実行できます。
- Data ONTAP 7-Mode を使用していて、 SnapMirror 関係が確立されたボリュームで作成されたバックアップに対して VBSR を実行する場合は、 SnapDrive for UNIX で overrid-vbsr-snapmirror-check オプションを on に設定します。

詳細については、 SnapDrive のマニュアルを参照してください。

- 場合によっては、ボリュームで SnapVault 関係が確立されていると、最初の Snapshot コピーに関連付けられていた最後のバックアップを削除できないことがあります。

バックアップを削除できるのは、関係を解除する場合のみです。この問題は、ベースの Snapshot コピーに関する ONTAP の制限が原因です。 SnapMirror 関係では、ベースの Snapshot コピーは SnapMirror エンジンによって作成され、 SnapVault 関係では、ベースの Snapshot コピーは SnapManager を使用して作成されたバックアップです。ベースの Snapshot コピーは、更新のたびに、 SnapManager を使用して作成された最新のバックアップを参照します。

- Data Guard スタンバイ・データベースに関する制限 *
- SnapManager は、論理 Data Guard スタンバイデータベースをサポートしていません。
- SnapManager は、 Active Data Guard スタンバイデータベースをサポートしていません。
- SnapManager では、 Data Guard スタンバイデータベースのオンラインバックアップは許可されていません。
- SnapManager では、 Data Guard スタンバイデータベースのパーシャル・バックアップは許可されません。
- SnapManager では、 Data Guard スタンバイデータベースのリストアは許可されていません。
- SnapManager では、 Data Guard スタンバイ・データベースのアーカイブ・ログ・ファイルの削除は許可されません。
- SnapManager では、 Data Guard Broker はサポートされていません。
- 関連情報 *

"ネットアップサポートサイトのドキュメント：mysupport.netapp.com"

clustered Data ONTAP での SnapManager の制限事項

clustered Data ONTAP を使用する場合は、一部の機能と SnapManager 処理の制限事項を理解しておく必要があります。

clustered Data ONTAP で SnapManager を使用している場合、次の機能はサポートされません。

- SnapManager が OnCommand Unified Manager に統合されている場合のデータ保護機能
- 1 つの LUN が Data ONTAP 7-Mode を実行するシステムに属し、もう 1 つの LUN が clustered Data ONTAP を実行するシステムに属しているデータベース
- SnapManager for Oracle では、 clustered Data ONTAP でサポートされていない SVM の移行はサポート

されていません

- SnapManager for Oracle では、ボリュームと qtree に異なるエクスポートポリシーを指定する clustered Data ONTAP 8.2.1 の機能はサポートされていません

Oracle データベースに関する制限事項

SnapManager を使用する前に、 Oracle データベースに関する制限事項を確認しておく必要があります。

制限事項は次のとおりです。

- SnapManager は Oracle バージョン 10gR2 、 11gR1 、 11gR2 、 12_c_ をサポートしますが、リポジトリまたはターゲットデータベースとして Oracle 10gR1 をサポートしません。
- SnapManager では、ホスト名の代わりにスキャン IP アドレスを使用することはできません。

Scan IP は、 Oracle 11gR2 の新機能です。

- SnapManager は、 Oracle Cluster File System (OCFS) をサポートしていません。
- Direct NFS (dNFS) 環境で Oracle 11g を使用すると、 orafstab ファイルにマウントポイントを追加できます。たとえば、ロードバランシング用の複数のパスがあります。

SnapManager は orafstab ファイルを変更しません クローンデータベースで使用する追加のプロパティは 'orafstab' ファイルに手動で追加する必要があります

- Oracle Database 9i のサポートは、 SnapManager 3.2 から廃止されました。
- Oracle Database 10gR2 (10.2.0.5 より前) のサポートは、 SnapManager 3.3.1 から廃止されました。



Interoperability Matrix を参照して、サポートされている Oracle データベースのバージョンを確認します。

- 関連情報 *

"互換性マトリックス : support.netapp.com/NOW/products/interoperability"

Oracle データベースの廃止されたバージョン

Oracle データベース 9i は、 SnapManager 3.2 以降ではサポートされません。また、 SnapManager 3.3.1 以降では、 Oracle データベース 10gR2 (10.2.0.4 より前) はサポートされません。

Oracle 9i または 10gR2 (10.2.0.4 より前) のデータベースを使用していて、 SnapManager 3.2 以降にアップグレードする場合は、新しいプロファイルを作成できません。警告メッセージが表示されます。

Oracle 9i または 10gR2 (10.2.0.4 より前) データベースを使用していて、 SnapManager 3.2 以降にアップグレードする場合は、次のいずれかを実行する必要があります。

- Oracle 9i または 10gR2 (10.2.0.4 より前) のデータベースを Oracle 10gR2 (10.2.0.5) 、 11gR1 、または 11gR2 のいずれかのデータベースにアップグレードし、 SnapManager 3.2 または 3.3 にアップグレード

します。

Oracle 12_c__ にアップグレードする場合は、 SnapManager 3.3.1 以降にアップグレードする必要があります。



Oracle データベース 12_c__ は、 SnapManager 3.3.1 からのみサポートされます。

- SnapManager 3.1 のパッチ・バージョンを使用して 'Oracle 9i データベースを管理します

Oracle 10gR2 、 11gR1 、 11gR2 のいずれかのデータベースを管理し、 SnapManager 3.3.1 以降を使用する場合は、 SnapManager 3.2 または 3.3 を使用して、 Oracle 12_c_c_databases とサポートされている他のデータベースを管理できます。

ボリューム管理の制限

SnapManager には、環境に影響する可能性があるボリューム管理の制限があります。

データベースには複数のディスクグループを使用できますが、特定のデータベースのすべてのディスクグループに次の制限事項が適用されます。

- データベースのディスク・グループを管理できるのは、 1 つのボリューム・マネージャだけです。
- Oracle データの保護では、論理ボリュームマネージャによってサポートされている raw デバイスはサポートされません。
raw デバイストレージおよび Automatic Storage Management (ASM) ディスクグループは、物理デバイス上で直接プロビジョニングする必要があります。場合によっては、パーティショニングが必要になります。
- 論理ボリューム管理を使用しない Linux 環境には、パーティションが必要です。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。